

平成 28 年度 学校評価報告書（実施結果）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月3日実施)	総合評価(3月28日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒一人ひとりの進路を保障する教育課程を編成し、「読解力」の視点から授業の質的転換・向上を図るため、組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>②生徒会活動や学校行事を通して、豊かな人間性、積極性と社会性を備えた生徒を育成する。</p>	<p>①アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた授業実践を行い、研究協議等により生徒主体の授業づくりについての研究を行う。</p> <p>②学校行事を実施していく中でその内容を検証し、更なる内容の充実とスリム化を図る。</p>	<p>①「読解力」の視点からアクティブ・ラーニングの視点を踏まえた授業実践をすべての教員が実施するとともに校内研修会を実施して、指導方法の研究に取り組む。</p> <p>②学校行事ごとの準備や当日の運営方法等を見直し、授業時間確保のための改善に取り組む。</p>	<p>①生徒による授業評価項目4における「4 かなりあてはまる」の回答が40%以上となったか。</p> <p>②学校行事等の見直しにより、授業時間の確保が図られたか。</p>	<p>①「かなりあてはまる」の回答は28%であった。</p> <p>②入学式を1日早めたことや三学期の始業式を放送で行う等により授業時間を確保した。</p>	<p>①ICTの活用などにより生徒の主体的な学びを推進する意欲的な取組もみられるが、教員や教科により取組状況に格差がみられる。今後、より組織的な取組を進めるため、研修会等の充実を図る。</p> <p>②更なる行事の精選と時間割の工夫が必要である。行事の廃止や「朝の読書」的な時間を設定するなど時間割の検討を行う。</p>	<p>①「学校が楽しい。」という生徒の評価が多数あることは評価できる。ディベートや発展的な実験など、生徒が主体的に取り組む授業をさらに増やす。</p> <p>②生徒が充実した様々な活動ができるよう、部活動、学校行事、授業をバランスよく設定し指導することが必要である。</p>	<p>①授業改善の取組が行われ、多くの教科で生徒の主体的な活動や興味関心を高める授業実践がなされたが、教科の枠を超えた研究協議等がさらに必要である。</p> <p>②学校行事の日程や行事の運営の見直しにより、授業時間増加を図ったが、今後もさらなる行事の見直しと時間割の工夫が必要となっている。</p>	<p>①教材の共有化や教科内のさらなる研究を進めるとともに教科を超えた実践的な協議の機会を設ける。</p> <p>②行事の見直しにより、廃止も含めた検討を進める。また時間割の隙間を活用したり、単位数を調整するなど工夫を施し、授業時間の確保を図る。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①部活動のこれまでの伝統を継承する中で、新たな活動や学習活動との両立を図る取組を行う。</p> <p>②生徒一人ひとりの人間的な成長と心ふれあう教育を推進するとともにきめ細かな教育相談体制を確立する。</p>	<p>①現在の部活動加入率(90%以上)を維持するとともに、保護者や地域の理解と協力を得ることで総合的に部活動を活性化させる。</p> <p>①部活動と学習活動の両立を図る。</p>	<p>①部活動指導体制の充実や施設面の改善を図るとともに他校や外部団体との交流等により活性化を図る。</p> <p>①夏季講習等の講座について、部活動との調整を行い、生徒の受講を可能にするとともに生徒への積極的な参加を促す</p>	<p>①部活動加入率90%以上を維持できたか。</p> <p>①生徒の部活動に対する満足度が高まったか。</p> <p>①部活動加入生徒の夏期講習等の講座参加者が60%以上となったか。</p>	<p>①11月現在の部活動加入率は約90%であった。</p> <p>①生徒のアンケートにおける部活動の評価で、80%が充実しているという回答であった。</p> <p>①部活動加入生徒の夏期講習の講座参加率は約90%であった。</p>	<p>①多くの生徒が充実した部活動を行っているが、保護者からは多くの良い評価の一方で、子どもの負担感への不安がある。</p> <p>①学習とのバランスを考慮した活動ができるように配慮していくことが必要である。</p>	<p>①「学校が楽しい。」という生徒の評価(前述)が多数あることは部活動の充実を反映したものであろう。</p> <p>①引き続き学習と部活動の両立を図るための取組を行っていく。</p>	<p>①部活動が生徒の学校への満足度を上げる大きな要素になっていることは確かである。</p> <p>①保護者や関係者からも学習活動との両立が課題として挙げられている。</p>	<p>①施設面の改善や外部指導者の活用等でさらなる部活動の活性化をめざす。</p> <p>①学習とのバランスを考慮した活動ができるよう、活動内容の見直し、補習・講習等の学習活動への配慮のほか、担任と部活動顧問との連携により、きめ細かな指導体制を構築する。</p>

3	進路指導・支援	卒業後までを見通したキャリア教育を充実させ、生徒の第1志望への進路実現を支援する進路指導を推進する。	キャリア教育の視点から、適切な進路指導を行い、生徒の進路希望の実現をめざす。	職員研修を実施し、模擬試験や可否結果等のデータの分析方法や活用方法を研究するとともに面談等による生徒への個別指導の充実を図る。	・スーパーグローバル大学(トップ型)現役進学率 15%以上を達成したか。 ・国公立大学現役合格率 18%以上を達成したか。	・スーパーグローバル大学現役進学率は 9.7%であった。 ・国公立大学現役合格率は 9.0%であった。	今年度の進路の状況を把握し、客観的な検証を行い次年度以降につなげていく。	IBM知的探訪、大学知的体験プログラムなどが進路意識の向上につながっている。	進路講話やキャリア関連行事などにより意識付けが行われ、データ分析や面談等により生徒個々に応じた進路支援を行うことができた。	授業時数の確保、夏季講習等の実施について検証を活かし検討を続けていく。 新しい大学入試やデータ分析・活用に関する職員研修を実施する。
4	地域等との協働	外部へ本校の教育活動の情報を発信し、地域に根ざし、貢献する学校づくりを進める。	ホームページ等を通じて本校の教育活動の情報を積極的に発信し、広報活動の充実に取り組む。	地域の自治体との交流の機会を設けるとともにホームページ等の一層の充実を図るなど広報活動に取り組む。	ホームページ等の広報機会の充実に向けて改善が図れたか。	ホームページの更新回数が増え、部活動紹介等の内容も充実するなど広報活動が改善した。	時機に即応した広報活動を心がける。また学校紹介ビデオの新バージョンの完成をめざす。	地域の小中学校、自治会との交流(訪問受け入れ・出前授業・イベントへの協力)により地域の活性化が見られる。	ホームページの充実、地域との交流等、情報発信を生かした連携を図ることができた。	新たな学校紹介ビデオを活用し、更なる情報発信に努めるとともに地域の情報も積極的に受け止めるようにする。
5	学校管理 学校運営	①若手とベテランの教員の相互理解とスキルの継承を図り、すべての職員が一体となって課題に取り組む体制を構築する。 ②老朽化した設備を更新するとともに災害発生時のさまざまな場面に対応できる体制を整備する。	②安全・安心な教育環境の整備を推進し、災害発生時の安全性の確保など防災体制の確立を図る。	②更新が必要な老朽化した設備の計画的な改善を行うとともに東日本大震災や熊本地震など直近の事例を教訓として、「煙り体験」や「喫食訓練」等の実践的な防災訓練に取り組む。	②施設・設備の更新や改善を図ることができたか。 ②災害を想定した、より実践的な防災訓練を実施し、生徒への防災意識を高めることができたか。	②グラウンドの照明、武道場改修、トイレの洋式化など、より使いやすい施設・設備となるよう更新・改善を行った。 ②通常の訓練やかながわシェイクアウトの訓練で防災意識を高める機会を得た。 備蓄食料の確保や校内の防災設備の見直しを行い、緊急時に備えた配備を心がけた。	②施設・設備の維持・管理として清掃活動を念入りに行うとともに、教室の黒板配置等更なる改善を行う必要がある。 ②実際の地震に近い防災訓練を工夫し、防災意識を高める必要がある。	②近隣の学校や自治会とも連携し、災害時に備えるための機会を希望する。	②設備の改修はかなり進めることができた。 使いやすい施設設備を目指すとともに、維持管理のため、日常の清掃や点検、資源節約やリサイクルを励行する必要がある。 ②防災のための備蓄や設備について一定の改善を行うことができた。実際の災害を想定した効果的な訓練の実施が必要である。	②清掃活動とともに、ストーブ、エアコン、電灯などの使用について、省エネルギーの観点から生徒の意識を高める働きかけを行う。 ②地域の施設設備についても情報を得、より現実に近い訓練の実施を目指す。